女性研究者の躍進に期待

国際会議に理工学部齊藤玉緒教授が登壇

9月6日、女性研究者の活躍促進を目的とした国際会議に、ダイバーシティ推進室長補佐で理工学部物質生命理工学科齊藤玉緒教授が登壇した。欧州地域の研究者に情報提供や支援を行うEURAXESSが主催し、「女性研究者のエンパワーメント：EUと日本の多様性の視点」というテーマのもと、日本からは本学と東京大学の2大学が参画した。

細胞性粘菌を研究する齊藤教授

世界的にSTEM（科学、技術、工学、数学）分野における女性研究者の割合が低い状況が続くなか、齊藤教授は「日本の私立大学におけるダイバーシティと男女共同参画」と題した発表を行った。

同教授は発表の中で、科学技術分野で優れた人材を育成することを目的とした文部科学省の科学技術人材育成事業に触れ、私立大学では採択実績のある先進校と取り組みを始めたばかりのスタートアップ校の二極化が顕在化していると指摘。さらにこうした状況のなか、「先進校である本学が私立大学のモデルとなり、さまざまな取り組みを提示・公開することで、私立大学全体のダイバーシティ推進の底上げに貢献することができれば」と期待を寄せた。

上智学院では、2012年1月にダイバーシティ推進室の前身となる男女共同参画推進室を設置し、差別のない社会や共生社会の実現に向けて取り組みを進めてきた。特に、女性研究者を支援する取り組みは学内外から高い評価を得ており、21年度には文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（調査分析）」のプロジェクトにも採択された。

同プロジェクトでは、同志社大学を代表校として海外の先進事例から私立大学のダイバーシティ推進モデルについて共同で調査を実施。その中で中心的役割を果たした齊藤教授が、日本の私立大学を代表して今回講演を行ったことは、これまでの活動の成果と言える。

本学では各種制度や労働環境を整備し、この10年間で女性教員の割合が4割近くまで増加した。今年度から始まった学院の中長期計画「グランド・レイアウト3・0」のアクション・プランにも女性研究者支援が明記され、大学全体のさらなる研究力向上に期待がかかる。

産官学連携で環境保全と地域振興をめざす

宇検村、日本航空、伊藤忠商事と連携協定締結

9月17日、上智学院、鹿児島県の奄美大島南西部に位置する宇検村、日本航空株式会社、伊藤忠商事株式会社の4者は、宇検村での環境保全と地域振興に取り組むことを目的に、連携協定を締結した。

締結式に出席した岡田副学長（左から2人目）

本学院と日本航空は、持続可能な地域活性化を目的とした連携協定を22年1月に締結し、豊かな自然環境を有する宇検村を舞台に共同研究に取り組んできた。一方で同村は、二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、伊藤忠商事と連携しマングローブ植林の取り組みを推進している。

今回締結した連携協定ではこれら2つの取り組みをつなぎ、4者が有する人的・物的資源や専門的知見を生かしながら、宇検村が目指すゼロカーボンシティや生物多様性の保全・回復を推し進めていく。また、人と自然が共生する環境の構築や新たな人流の創出に向け、持続可能な地域活性化にも取り組む。

締結式に出席した岡田隆学術研究担当副学長は、「本学は教育精神の『他者のために、他者とともに』を具現化するため、地球規模課題の解決に取り組んできた。この4者連携協定に基づき、宇検村の自然環境保全と地域活性化を両立させるとともに、中高生・大学生などの若い世代が、身をもって自然の大切さと宇検村の素晴らしさを体感してもらいたい」と期待を寄せた。

今後は、地球環境学研究科が主体となって、マングローブ植林における学術的知見の提供および自然環境への影響調査を行う。また、体験型エコツーリズム等の企画・実施による新たな人流の創出、自然体験による次世代青少年育成など、多岐にわたる分野において連携・協力を実施していく予定だ。

下田市とも協定締結

8月8日、上智大学と静岡県下田市は、国際社会で活躍できる人材の育成とSDGs（持続可能な開発目標）の推進などを目的とした連携協定を締結した。

下田市は、その国際性を生かし、国際社会で活躍できる人材の育成と、世界に誇れる魅力的で持続可能な街づくりに取り組んでいる。同市内には、国内島嶼部・海外島嶼国を対象にグローバルな研究を推進する上智大学アイランド・サステナビリティ研究所（※）の研究拠点が設置されており、下田市と本学はこれまでも学術分野での交流・連携を重ねてきた。

今後、同研究所に所属する地球環境学研究科のあん・まくどなるど教授を中心としたメンバーが、海岸の自然環境保全と地域振興を両立させる取り組みを推進していく。

※上智大学アイランド・サステナビリティ研究所

本学では地球環境研究所内にユニットを独立させる形で、22年7月に同研究所を立ち上げた。地球環境研究科の教員を中心としたメンバーが国内自治体、産業界、国際機関、海外法人との連携により、産官学で各研究活動に取り組んでいる。

香港中文大学との連携講座

小売顧客体験の企画提案に取り組む

8月14日から25日、本学と協定校の香港中文大学による連携講座を実施した。今年度は本学学生6人と、香港中文大学で観光学やホテル経営学を学ぶ9人の学生計15人が参加した。

日本橋髙島屋S.C.を前に説明を受ける学生たち

今回は、「Design Tomorrow's Retail Customer Experience（小売顧客体験の新たなデザイン）」がテーマに設定され、日本を代表する百貨店である株式会社髙島屋が協力。新型コロナウイルス感染症の拡大により、従来の小売業の在り方が大きく変わったことを受け、新たな顧客体験を提案する課題が提示された。

香港中文大学の学生と共にグループワークの成果を発表

前半は、香港中文大学の教員2人による小売業をテーマにしたオンラインの講義。後半は香港中文大学の学生が来日し、企業訪問と対面で講義が行われた。22日にはユニークな店舗形態とコンセプトで展開する日本橋髙島屋SCを訪問し、日本の伝統的な百貨店の要素を色濃く残す館内や外商お得意様サロンなどを見学した。また、株式会社髙島屋日本橋店企画宣伝部部長の森裕紀氏（当時）から、髙島屋グループのまちづくり戦略や、独自の店舗形態についての説明を受けた。

最終日のプレゼンテーションでは、銀座を代表する商業施設の一つ「GINZA SIX」と世界的注目を集める香港の商業施設「K11 MUSEA」の比較から見えた人を惹きつけるショッピングモールの要素、口コミから紐解く渋谷「MIYASHITA PARK」における滞在時間を増やすための改善提案、池袋サンシャインシティのホスピタリティと観光価値を高めるためにポケモンセンターをさらに有効活用する方策の3案が発表された。両大学の担当教員から、学生ならではの着眼点が高く評価され、参加学生にとって貴重な学びの場となった。

本プログラムのコーディネーターを務めた経済学部経営学科の小阪玄次郎教授は、「今年度は香港中文大学の学生・教員に一週間の来訪をしてもらう機会を持つことができ、企業訪問や直接対面での密度の濃い討議を行うことができた。バックグラウンドの異なる学生同士が英語でのコミュニケーションを通じて信頼を育んでいた様子が窺え、それが最終成果の質の高さにつながったと思う」と振り返った。

図書館の魅力を伝える

動画『図書館を知る』を公開

上智大学図書館WEBサイトでは2023年4月に、中央図書館の紹介動画『図書館を知る』を公開した。図書館は1984年にオープンし、入館者数が100万人を超える年もあったが、ここ数年は電子資料の拡充や新型コロナウイルスの影響もありその数が減少している。動画をとおして在学生、教職員の他、一般の方にも分かりやすく図書館の魅力を伝え、多くの人に利用してもらうことが動画公開の目的だ。

動画には図書館の魅力をよく知る在学生も出演

『図書館を知る』は基本的な利用方法や所蔵資料の紹介など5本の動画で構成。5分程度の映像と短いテロップ、ナレーションでつくられた動画は、視聴しやすく興味を持って観られる内容だ。また普段の図書館の風景や雰囲気が伝わるように、学生ボランティアが出演している。

図書館の担当者は「この動画で図書館をよりよく知ってもらい、学習や研究活動のために自分に合った図書館の利用の仕方を見出してほしい」と話している。

■公開動画『図書館を知る』

①図書館の基本的な利用方法がわかる『基本編』
②中央図書館の施設がわかる『施設編』
③図書館が所蔵する資料がわかる『資料編』
④オンラインで図書の貸出延長や予約などのサービスが利用できる『MyOPAC を使う』
⑤電子資料の利用方法がわかる『電子ブック・電子ジャーナルを使う』

ハイメ・フェルナンデス名誉教授逝去

8月17日、虚血性心疾患のため死去。85歳。

1938年生まれ。78年マドリード・コンプルテンセ大学哲学博士課程修了。71年本学外国語学部イスパニア語学科講師、81年同助教授、86年同教授、2004年同特別契約教授。09年から本学名誉教授。

89年4月～93年3月図書館長、90年4月～93年3月イスパニアセンター所長、94年4月～98年3月外国語学部イスパニア語学科長を務めた。

著書に、川端康成『山の音』訳書（Barcelona, Plaza&Janés）、遠藤周作『沈黙』訳書（Madrid, Atenas_Sigueme）、『ドン・キホーテへの招待』（西和書林）など。

専門は神学、哲学、セルヴァンテス研究、日本文学研究。